

天神古墳（桐生市）

前方のマウンドが天神古墳/中央小学校の校舎裏にあって、北半部（マウンドの裏側）は道路により削られている/古墳時代後期築造の二段築成の円墳/南側から見たところ



標柱と説明板が立っている



標柱には「村指定史跡 小林の天神古墳」とある



周溝が巡り、葺石は存在しないと云う/石室は、輝石安山岩を使用した自然石乱石積で、形式は横穴式袖無型らしい

小林天神古墳 新里村指定史跡

天神古墳は、別名天神山古墳とも呼ばれ、かつて墳丘上に天神様がまつられていたことからこの名前を残している。昭和10年の県下古墳一斉調査の際には、村内に残る代表的な古墳のひとつとして、新里村第1号墳に指定されている。墳丘は、北側が現在道路により削られているものの、本来は直径42m、高さ3mの規模を有する円墳であったと推定される。周囲には幅4mの周溝が巡らされており、盛土は二段に築成され、葺石は存在しない。基壇面には埴輪円筒列が盛土の周囲を圍繞していた。埋葬主体部は横穴式袖無型石室で、昭和初期に開墾により開かれた。石材には付近で産出する輝石安山岩を使用し、自然石乱石積石室で墳丘南側に開口していた。全長6.4mで、入口から奥へ2.8mの位置に長径38cmの框石が設けられ、羨道部と玄室部を区画していた。遺体の埋葬された玄室は長さ3.6mで、羨道部よりも1段下がって構築されている。石室内から副葬品として鉄刀2振、金環9個、丸玉50個、鉄鏃、須恵器等が出土している。墳丘上からは円筒埴輪のほか、家型埴輪、鞍形埴輪、人物埴輪頭部等が出土しており、家型埴輪は現在、東京国立博物館に所蔵されている。



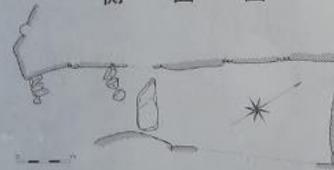
小林天神古墳石室図



側面図



奥壁図



床面図

1996年10月

新里村教育委員会

左手にある覆屋の中には、墳丘上から出土した家型埴輪のレプリカが展示されていた



これが家型埴輪

 [video](#)



その更に左手から墳丘の上ってみよう



これが墳丘/右手に縄が張ってある

 [video](#)



石室が開口しているようだ



玄室が表れているらしい

[video](#)



こちらがマウンドの裏側（北側）で、この道路によって墳丘が削られているのが見て取れる/東側から西方向に見たところ



反対に、西側から東方向に見たところ

[video](#)



少し退いて、東側から見たところ

 [video](#)



参考ホームページ

<http://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/bunkazai/1010700/shishitei/shiseki/1002022.html>

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2019/12/10/000000>

<https://homepage.obunko.com/iseki/kohun/kobayashi-tenjin.htm>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/niisato/ten.htm>

<http://kofuntokaare.main.jp/4goufun/page870.html>

<https://tigerdream-no.blog.jp/archives/8350081.html>

<http://obito1.web.fc2.com/kiryuumidori.html>

<http://yoshida-kofun.in.coocan.jp/gkiryu1.htm>

